

蒲田映画祭2017参加・東京ビデオフェスティバル・アーカイブス

# 東京ビデオフェスティバルのあゆみ

The 40th anniversary

## 映像へようこそ!



市民映像が育った東京ビデオフェスティバル(TVF)が40周年を迎えます。今回は珠玉の名作を上映し、市民映像の軌跡を振り返りながら【新たなコミュニティの胎動】【市民ジャーナリズムの躍動】【自己内面の充実】などを検証します。

**10月15日(日) 10:00~12:30**

**会場 大田区産業プラザPiO 3F 特別会議室**

交通 京浜急行「京急蒲田」駅東口下車 徒歩4分

JR、東急「蒲田」駅東口下車 徒歩12分

- 入場無料 登録なしでも視聴できます。
- 企画 NPO法人 市民がつくるTVF
- お問い合わせ 070-4150-2167 email: npotvinfo@gmail.com

映像のショーイング 出前上映会など希望の方には相談に応じます。





# 東京ビデオフェスティバルのあゆみ

上映作品 作品概要



「走れ！江ノ電」  
川崎市立御幸中学校放送部 18分 12秒  
1979年 第1回ビデオ大賞

鎌倉と藤沢を結ぶ江ノ電。走り続けているこのローカル電車を、様々な角度からとらえたルポルタージュ作品だ。江ノ電と沿線住民との関わりや、江ノ電の持つ様々な表情を移り変わる四季の風物などを折りまぜながら描写した。取材を続けるうちに、江ノ電が次第に身近かな存在になり、やがて、親愛なる仲間の一員になっていく一冊のエッセーともいべき作品。



解説 佐藤博昭  
東京ビデオフェスティバル審査委員

1962年生まれ。ビデオ作家。日本大学芸術学部映画学科卒業。1986年より極私的ビデオ制作を続ける。ビデオ作家グループ「SVP2」代表。農業情報チャンネルを通じて、地域ビデオリポーターの育成に関わるほか、映像教育セミナー、ワークショップを精力的に行っている。現在、日本工学院専門学校、日本大学芸術学部映画学科、武蔵大学社会学部非常勤講師。日本映像学会会員。



「破れ表紙の人生アルバム」  
河田茂 13分 16秒  
1991年 第14回ビデオ大賞

62年間の人生を映像と軽妙なナレーションで綴った自分史ビデオ。少年時代、文学のめりこんだ学生時代、新聞記者時代、定年退職。作者は「人生は演技の連続だ」とつぶやく。退職金をスーパーのビニール袋に積んで自転車の籠で運ぶシーンは演技をやる悔しさが滲み出ている。



「ダムの水は、いらん」  
佐藤亮一 20分  
2002年 第24回ビデオ大賞

阿蘇の大地を流れる川辺川には昭和の初めから造られた農業用水路があり、近隣の水田、牧草地を潤している。この水路を増し、巨大ダムを建設しようと計画が持ち上がる。ダム建設を押し進めようとする農家と環境保全運動がスクラムを組んだ怒りの記録。



「ホーム」  
青木純・恵土敦・小柳祐介・八山健二  
3分  
2004年 第26回 優秀作品賞

クレイアニメーション。地下鉄の駅。上りと下りの電車が同時に到着する。車内には大勢のサラリーマン。ドアが開くとそれが全国のようにサラリーマンたちは一斉にホームに飛び出て、戦いを始める。名刺手裏剣が飛び、新聞も週刊誌も武器になる。列車のベルが鳴ると、戦いは終わり、電車が飛び乗る。サラリーマンの怒りに満ちた短編。



「漢字テストのふしぎ」  
長野県梓川高等学校放送部 9分 24秒  
2007年 第29回ビデオ大賞

小中高 200名の先生による漢字テストの採点のバラツキや基準の曖昧さに着目し、要因を解明する行動の取材記録。教育委員会、文化庁などの関係部門に基準はなく、入試基準が先生のごたわりなのか、様々な意見や矛盾を高校生が明らかにしていく。



「じいちゃんとうなぎ」  
長妻洋 7分  
2012年 第34回 優秀作品賞

家族ビデオ日記。孫娘たちが夏ばて気味で、健康回復を願い、心のこもった鰻を食べさせたいと孫は近くの堀川で、挑戦するが、釣れない日々が続く。ギリギリで収穫があり、蒲焼が間に合った。釣りをする作者と通行人の風景の関わりや独特の語りが出る。



「限界集落に命の糧と元気を運ぶ  
二人三脚の移動販売車」  
内田一夫 16分 55秒  
2013年 第35回ビデオ大賞

南牧村は日本一高齢化の進んだ集落だ。山の中腹に住む年寄りたちのつかの間の楽しみは移動販売車の来訪。大切な食料補給のライフラインだ。28年続けてきた安藤さん夫婦とは家族同様の付き合いとなり、賑やかな笑いの井戸端会議となる。行政が入り込めない限界集落の現実を取材。



「Gray Zone」  
塚原真梨佳 12分 39秒  
2013年 第35回 筑紫哲也賞

沖縄の70%を米軍のフェンスが囲っている。沖縄生まれの女子大生が、オスプレイの配備問題をきっかけに、家族や友だちと沖縄のあり方と複雑な心境を取材しようとする。基地に頼りすぎた沖縄の窮乏さを当事者の思いとして実感する。結婚して沖縄に住みだした母の発言が興味深い。



「The Stream VI」  
櫻井宏哉 6分 52秒  
2017年 第39回ビデオ大賞

ビデオアート。今まで空相だった水田に水が盛られ、美しい水の感覚が誕生する。水田という人工の中で、水という自然が有機体に次第に寄り添って行く様が興味深い。水が次第に生命を呼び、増殖して行く。自然が抽象化され、異なる美しさが現れる。この作品は水路を劇場として水流により振り付けられた水の動きと音響によるパシエであるともいえる。